

標題 西条柿のジョイント栽培研修会を開催。技術確立に向け一歩前進！

(ダイジェスト)

生産者および農業普及員の、西条柿におけるジョイント栽培技術の習得と知識向上を目的に研修会を開催しました。研修会では、講師として福岡県農林業総合試験場の朝隈^{あさくま}研究員より、西条柿での仕立て方を中心に助言をいただきました。

果樹の新たな樹形として、神奈川県農業技術センターが開発した「ジョイント仕立て」（以下ジョイント栽培とする）は、超密植による早期成園化や、脚立を使わない樹形で省力化が図られること等のメリットがあります。ジョイント栽培は全国的に各樹種で現地導入されており、カキでは福岡県農林業総合試験場が‘太秋’という品種で技術確立し、栽培マニュアルを作成されています。

本県の主力品種である西条柿でもこのジョイント栽培ができないか、という生産者の思いから、4年前に現地導入が始まり、現在、規模は小さいものの13戸でジョイント栽培が行われています。

しかし、西条柿での試験成績がないため、現地で実証ほを設置し、生産者、JA担当者、普及員が検討を重ねながら試行錯誤の中取り組んでおり、技術確立するにはまだ多くの課題があります。このような中、現地の課題解決と、生産者および普及員のさらなる技術習得のため、福岡県農林業総合試験場から朝隈研究員を招き、ジョイント栽培研修会を開催しました。

研修会は、1日目は現地検討として、平田柿部会のジョイント栽培実施生産者の各ほ場で生育状況および今後の管理について意見交換するとともに、助言をいただきました。2日目は講演会とし、福岡県で作成されたジョイント栽培マニュアルの内容について説明をいただきました。

両日とも、生産者の方々から多くの質問が出され、とても活発な意見交換となりました。また、朝隈研究員から「現地の状況を見て西条柿でもできる可能性は十分あると感じた。」という一言をいただき、生産者、普及員ともに、技術確立に向け意欲も技術も一歩前進したのではないかと感じました。

今後は、良い苗木の確保や枝の更新方法等の残された課題を解決し技術確立できるよう、生産者の方々と検討を重ねていきます。



現地検討の様子



講演会の様子

